



東小だより

学校だより 2月号
令和8年1月30日
昭島市立東小学校
校長 鈴木 正樹

ふれあい月間を通して

校長 鈴木 正樹

暦の上では春を迎えますが、まだまだ寒さの厳しい日が続いています。そのような中でも、子供たちは元気に登校し、学習や友達との関わりの中で日々成長しています。保護者・地域の皆様には、日頃より本校の教育活動に温かい御理解と御協力を賜り、心より感謝申し上げます。

2月は、「ふれあい月間」として、人と人とのつながりや思いやりの心を大切にしようとこれまでの自身の生活を振り返り、改めて考える1か月です。学校生活の中で、友達と協力する場面や、相手の気持ちを考えて行動する場面は数多くあります。ふれあい月間は、こうした日常の一つ一つを振り返り、「自分の言葉や行動は、相手にとってどうだっただろうか。」「もっと優しくできることはないだろうか。」と考える大切な機会です。

本校では、挨拶への取組や学級での話合い活動、縦割り班活動をはじめとする異年齢交流、体験活動、学校行事などを通じて、互いを認め合い、支え合う心を育てています。今学期も「東小まつり」の計画・準備に各学級で協力・助け合い取り組んできました。子供たちは、友達から声をかけてもらった経験や、困っているときに助けてもらった経験を重ねる中で、人と人との関わりの温かさや心地よさを実感しています。その積み重ねが、安心して過ごせる学校づくりにつながっていくと考えています。

特に、言葉の力は人ととの関係を築くうえでとても重要です。何気ない一言が相手を勇気付けることもあるれば、逆に相手を傷付けてしまうこともあります。今月は、相手の立場や気持ちを考えて、思いやりのある優しい言葉をかけることの大切さについて、一人一人が改めて考えて実行に移してほしいと思います。

年度末を迎え、子供たちは次の学年へと歩みを進める大切な準備の時期に入っています。一人一人が「自分は大切にされている。」「自分も誰かの役に立っている。」と感じながら、残りの学校生活を充実したものにしてほしいと願っています。

御家庭や地域の皆様におかれましても、子供たちと関わる中で、良さや頑張りを認め、温かい言葉をかけていただければ幸いです。学校・家庭・地域が連携・協力し、子供たちの健やかな成長を支えていけるよう、今後とも御協力をお願いいたします。